

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(松阪あゆみ特別支援学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		一人ひとりの能力・特性に応じた教育を推進し、児童生徒が自立し、地域社会の一員として主体的で豊かに生きる力を育成します。 【教育目標】 自立と共生 ～地域で豊かに生きる子どもを育てます～
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	4H(健やかな体・思いやる心・まなび活かす力・ゆたかな希望) ○体力を高め、心身ともに健やかな体で、生き生きとたくましく生きる力 ○自分を認め、他者を思いやる心を身に付け、共に支え合いながら生きる力 ○様々な学びで身につけた知識や技能、社会性などを活かしながら生きる力 ○ゆたかな希望を心に抱き、自己実現を目指し未来を切り開きながら生きる力
	ありたい教職員の姿	4W(教職員の取組)を実践し、児童生徒・保護者・地域から信頼される教員として行動する。 ・HEARTWORK(心に寄り添う指導) ・TEAMWORK(確かな協働) ・FOOTWORK(率先した行動) ・NETWORK(地域との連携)

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全で楽しい学校生活を送りたい。 ・自らの持つ力を引き出してほしい。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番の理解者として、子どもの相談相手や自己実現に向けての支援協力者であってほしい。 ・一人ひとりの障がいを理解しそれぞれに応じた教育を展開してほしい。 ・卒業後の社会参加に必要な力を身に付けさせてほしい。 	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな学校であるか知りたい。 <p><交流相手校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい理解や、人権感覚の育成につなげたい。 <p><各関係機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特別支援教育全般の牽引的役割を果たしてほしい。 <p><実習先・就労先></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や働く意欲などを身に付けさせてほしい。 	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校への理解を深めてほしい。 <p><交流相手校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の児童生徒のことを理解してほしい。 <p><各関係機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理解を深めてほしい。 <p><実習先・就労先></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の就労場所や居場所を提供してほしい。

(3)前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の内容として、携帯電話が使用できない場合の安否確認、下校時の居場所確認等、学校と家庭で連携し取り組んでいく必要がある。 ・トコトコネットワークの加入率をあげていくために、学校だけでなく評価委員も含めて地域に発信してことで学校と地域の連携、関係性を深めていく。 ・教職員が相談し合える職場環境、組織づくりが大切である。 ・児童生徒の実態を捉えながら指導、支援に繋げていく取り組みは今後も継続していくことが大切である。
(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が同時に授業を実施しているため、お互いの授業を参観する形態の研修を実施することは困難である。引き続き、授業改善につながる効果的な研修のあり方を検討していく必要がある。 ・児童生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、起こりうる様々な危機を想定し、主体的・組織的に動く教職員集団になるよう体制を整える必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・「カフェトコトコ」の外部開放等を通じて、地域の学校への理解を促進し、地域とともに児童生徒を育てていく環境を整えていく必要がある。 ・教職員の働き方改革を進める必要がある。時間外在校時間の縮減に向け、各部、各分掌を中心に業務内容の精選を随時行い記録に残し、仕事の見える化、スリム化を図っていく。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育システム」を活用して児童生徒一人ひとりの「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を充実させ、児童生徒にとってより効果的な支援を行う。 2. 安全・安心な学校生活 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の命と安全を守る学習や訓練を継続して行い、安全・安心な学校生活を保障する。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育を牽引する役割 <ul style="list-style-type: none"> ・地域における特別支援学校としてのセンター的役割を果たす。 ・人権意識を高く持ち、地域と深くかかわる中で情報を発信する。 2. 信頼される学校 <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの向上に努め、保護者、地域等との信頼関係を築く。 3. 働きやすい職場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・運営組織の中で全教職員が自分の役割を十分果たす。 ・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実した毎日を過ごせるよう、情報共有する時間や環境を整備するとともに、効率よい会議運営を行うなど、働きやすい職場づくりを目指す。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 教育活動の充実	<p>(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。学校教育目標達成に向けて、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を行う。</p> <p>○生徒の実態把握を行い、持てる力や可能性を伸ばす</p>	(年度末および適宜記載)	◎

	<p>支援を行う。 ○「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し、児童生徒にとってより効果的な支援を行う。 ○小学部・中学部・高等部それぞれの教員による小グループでの授業研究を行う。</p> <p>【活動指標】 ・小グループでの授業研究を行う。 4回 ・ICTを活用する等効果的な授業を公開授業や参観日で実践する。</p> <p>【成果指標】 ・保護者アンケートの実施 2回 ・年度末に成果と課題を学部で共有する。</p> <p>(2)地域で豊かに暮らすために学校間交流と居住地校交流を行い、子どもたちが互いを理解し尊重しあう機会を設け社会性を養う。</p> <p>【活動指標】 ・事前に活動内容や日程等について打ち合わせを行い、直接的な交流を継続して行う。</p> <p>【成果指標】 ・居住地校交流 希望者全員実施 ・学校間交流 小学部、高等部で年間1回以上実施</p> <p>2. 安全・安心な学校生活</p> <p>(3)自分及び他者の命と存在を大切にし、それらを守るために、自ら行動する力を養う学習を行う。また、いじめや問題行動の未然防止、早期発見・解決に努める。</p> <p>【活動指標】 ○人権教育カリキュラムに基づいた学習を実施する。 ○性に関する学習を各学部1回以上行う。 ○児童生徒が教員やスクールカウンセラーに相談しやすい環境をつくる。</p> <p>【成果指標】 ・ピンクシャツデーのメッセージ参加 220人以上</p> <p>(4)危機発生時等における児童生徒の命と安全を守るための学習及び訓練を行う。</p> <p>【活動指標】 ・地震・火災等の避難訓練の実施 4回 ・引き渡し訓練等保護者と連携した訓練の実施 1回 ・災害伝言ダイヤル体験活用度 各回60%以上 ・交通安全に関する講習の実施 各学部年間1回以上 ・教職員対象の救急救命講習の実施 1回</p> <p>【成果指標】 ・保護者アンケートで安心して学校に送り出している割合 90%以上</p>		
改善課題			
(年度末に記載)			

3. 働きやすい職場づくり	・報道提供 年3回以上 (5)教職員一人一人が健康で、充実感をもちながら教育活動を行うことができる環境をつくる。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 90%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90%以上 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 10時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数 18日以上		※
			※
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)